

【様式】

令和5年度 学校マネジメントシート

学校名 (四日市西高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		<ul style="list-style-type: none"> ・自主・自律をモットーに、地域から信頼される活力ある進学校を目指します。
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ喜び、わかる楽しさを実感できる生徒。 ・生徒一人ひとりの持つ力を伸ばし、それぞれの目指す進路を実現できる生徒。
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の専門集団として力を高め、協働して活力ある教育活動を創造できる教職員。 ・「信頼」を軸に、生徒、保護者はじめ全ての関係者との絆を深め、安全で安心して学べる教育環境を創造できる教職員。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、学習指導などを通して、粘り強く進路実現をしたいと望んでいます。しかし、やや受動的傾向があり、自分から積極的な行動に移せない面がみられます。 ・保護者は、様々な情報提供を受けて、子どもの成長を実感し、本人が望む進路選択をさせたいと望んでいます。 ・地域からは、地元の中学生が入学したいと思える、頼れる学校であってほしいと期待されています。 	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の保幼小中からは、模範となる高校生としての行動を期待されています。 ・保護者からは、生徒が自己実現を果たせるよう、希望する大学や上級学校などへ円滑に接続できる、確かな学力や生きる力をつける指導が期待されています。 		<ul style="list-style-type: none"> ・桜地域の高校として、本校の教育活動に理解・支援をしていただくとともに、忌憚のない意見や提言をいただきたい。 ・小中高の一層の連携を深め、地域全体で生徒を育む取組を一緒に進めていただきたい。
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌から出た改善課題について多忙化の中であるが時間を見つけて、全職員で共有を図る必要がある。 ・自分たちが決めた目標を達成できなかった現状分析を行い、目標数値を修正して改善を図る必要がある。 ・改善課題については「達成した」という満足感を教員が得られるものにすべきである。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は創立49年目の普通科高校で、16,882人の卒業生は地元をはじめ全国各地で活躍している。平成7年度に比較文化・歴史コース、続いて平成15年度には数理情報コースを新設し、普通科の中から、さらに学びの視野を広げ、難関大学への進学という自己実現を図りたいとする要望に応えることとした。平成25年度入学者選抜から、前期選抜でコース定員の25%、後期選抜で残り75%を両コースのくり募集としています。 ・今年度、近隣4中学校（桜・菰野・三滝・常磐）から入学者の約3分の1にあたる36%であり、本校の教育活動が地域から評価と信頼を得ていると判断できます。一方で生徒の学力幅や個性は以前よりも広くなり、一人ひとりの状況に対して満足いく高校生活や進路を実現させていくことが引き続きの課題です。 	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は、730人近い生徒が在籍する高校として、安全で安心して学べる教育環境づくりに努めています。 ・大規模地震等災害に備え、四日市市の指定避難所として地域住民の防災避難訓練等を受け入れています。 ・教職員の総勤務時間の縮減と勤務の平準化が課題となっていることから、教職員の健康管理に留意しつつ継続的に様々な取組を行う必要があります。 ・教員による不祥事が県内で発生していることから切れ目なく職務に対する責任感を認識させることや管理職に相談しやすい雰囲気作りに努める必要があります。 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導 <ul style="list-style-type: none"> ① ICTを活用した質の高い授業の創造に努め、生徒が自ら学ぶ喜び、わかる楽しさを実感出来るよう授業の充実を図ります。 ② 教科マネジメントを確立することにより、学びの仕組みを十分に機能させ、基礎学力の定着と自ら設定した進路希望を実現するための、確かな学力の定着を図ります。 ○進路指導 <ul style="list-style-type: none"> ① 教職員は生徒の進路希望の実現に向けて、個人面談及びそのための情報共有の質を向上します。 ② 教職員は生徒の学習活動を重視し、希望実現に必要な学力の向上・定着のための支援の向上を行います。 ③ 教職員は進路指導および高大接続にかかわる各種情報を整理、対応し情報発信を行います。 ○生活指導 <ul style="list-style-type: none"> ① 生徒の自己指導能力向上を図ります。 ② 高い規範意識と公共の場での倫理観を確立させます。 ③ 学校行事・課外活動を通して活力のある西校生を育成します。 ○保健管理 <ul style="list-style-type: none"> ① 生徒の健康状態や健康課題を適切に把握し、生徒が自らの健康課題に取り組めるような機会を設けるとともに、教員・生徒が安心して学ぶことのできる安全で適切な学校環境を確保します。 ② 関係職員との連携をより充実させ、同じ見通しを持って生徒を支援します。 ○人権教育 <ul style="list-style-type: none"> ① 教職員は「人権教育はすべての教育活動の前提である」という認識に立って教育活動を行います。 ② いじめ防止対策基本方針をふまえ、組織的に未然防止・早期発見・早期対応に努め、「いじめを許さない」学校づくりに取り組みます。 ③ 人権学習を通じての気づきや学びを、人権問題の解決のために自分の生活や社会状況を変えていこうとする意識につなげます。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ○学校運営全般 <ul style="list-style-type: none"> ① 高大接続改革、新学習指導要領の実施等の教育改革に対応しうる学習の仕組みや授業の在り方について、カリキュラムマネジメント構築を図ります。 ② 教育活動全般にわたり効果的なマネジメントに努め、その結果をもとに学校関係者評価活動に取り組むことで、学校マネジメントの質を高め、教育活動の向上に努めます。 ③ 教職員が対話を通して関係づくりに努め、業務の平準化を図り支え協力し合うことを通して組織能力を高め、やり甲斐を持って教育活動に邁進できる満足度の高い学校づくりをします。 ④ 年休取得の促進や、定時退校日に定時退校できるよう業務を整理することなどを定着させ、教職員の総勤務時間の縮減に努め、健康管理と健康維持の取組を行います。 ⑤ コンプライアンスミーティングを定期的で開催することで教職員の不祥事を発生させない土壌づくりに努めます。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 学習指導の充実	(1) 授業交流に関し、プロジェクター等、ICT機器の利用促進を兼ね、「利用後アンケート」等を絡めたうえで再活性化を図ります。 ※授業交流状況 (2) 総合的な探究の時間における具体的な指導内容及び標準	(年度末および適宜記載)	◎

<p>2 生徒指導 の充実</p>	<p>的日程の確立を図ります。 ※進捗状況</p> <p>(1) 生徒の自己指導能力向上を図り、状況に応じて適切な行動がとれるように、規範意識やマナーの向上、美化意識の徹底、交通安全に対する意識の向上、自他の生命や人権の尊重などに取り組みます。</p> <p>(2) 生徒や教職員が互いに積極的に挨拶をしあえる状況をつくることで、他者を思いやり、自らを大切にする態度を育て、生徒相互の人間関係を育む取組を推進します。</p>		※
<p>3 特別活動 の充実</p>	<p>※講習実施及び指導状況</p> <p>(1) ホームルーム活動や生徒会活動を充実し、生徒会執行部が中心となり学校行事や学校生活に関する話し合いを活発に行い、学校生活の充実を支援します。</p> <p>(2) 部活動をとおして精神面や体力面を鍛え、競技力の向上とともに粘り強く最後までやりぬく姿勢や人間関係を学び、それぞれが最大の成果を発揮できるように支援します。</p>		※
<p>4 進路指導 の充実</p>	<p>※生徒満足度</p> <p>(1) 進路に関する知識や情報を収集・理解し、個人面談や進路検討会を通じて生徒個々の情報を教員間における共有を通じて進路実現への道筋を用意します。</p> <p>※生徒満足度</p> <p>(2) タブレット端末「Chromebook」及びポートフォリオ教材であるカスタマイズ手帳「四西手帳」を活用してデジタルとアナログの両立を目指し、自発的な学習習慣、進路意識の育成を支援する。生徒自身の自己P D C Aの構築を目指し学年と連携し、生徒の学習支援活動を行います。</p> <p>※指導状況及び進路結果</p> <p>(3) 生徒の進路実現のため、生徒個人に応じた多様な入試に対して指導の共有及び新課程入試における情報の共有を行います。またI C Tの活用を行い、生徒に対してガイダンスを行い個々に応じた進路実現を支援します。</p>	(年度末および適宜記載)	◎
<p>5 人権教育 の充実</p>	<p>※ガイダンス実施状況</p> <p>(1) 人権に関する広報活動を充実させ、日常生活に人権を意識した思考・行動ができる資質を養います。</p> <p>※実施状況</p> <p>(2) 人権教育推進計画のもと、人権L H Rや人権講演会などを実施し、他者の声を聴き、話し合い、問題を解決するために努力する資質を養います。</p> <p>※アンケート分析</p>		※
<p>6 保健管理 の充実</p>	<p>※アンケート分析</p> <p>(1) 生徒自身が心身の健康状態をしっかり把握し、管理できるように促していきます。生徒の心身の健康状態の変化や問題点を早期発見するため、学年団等と連携を取ります。</p> <p>※学年団との連携状況</p> <p>(2) 校内の安全点検を実施し改善していくことで、危機発生を未然に防ぎ、適切な学校環境衛生を確保します。</p>		※

	<p style="text-align: right;">※年2回以上</p> <p>(3) 会議・研修会を利用し、教職員の保健・教育相談分野等への知識・理解向上を図ります。</p> <p style="text-align: right;">※年1回以上</p>		
改善課題			
(年度末に記載)			

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
1 組織運営	<p>(1) 目指す学校像の実現のため、カリキュラム・マネジメントを推進します。</p> <p style="text-align: right;">※実施状況</p> <p>① 学期ごとを目安に、各分掌、学年で年度当初の目標の達成度、課題、改善策を検討し、それを全体で共有し、即効性のあるPDCAサイクルを構築します。</p> <p>② 日常的に分掌、学年会において業務遂行に必要な情報が適切に共有、活用されることで、課題解決について議論が進展するように努めます。</p> <p>③ 企画運営委員会において当面の教育課題に加え、中長期的なビジョンについて協議します。</p> <p>④ 教育課題に対して、柔軟かつ即効的な対応をするために、関係する企画運営委員でミーティングを随時、開催します。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントを推進していくうえで、学校への信頼は不可欠です。学校信頼向上委員会を中心に、信頼向上に関して現状と課題、さらには直近の教育活動における留意点を確認し、職員全体に共有し、職員の不祥事根絶に向けた取組を行います。</p> <p style="text-align: right;">※職員研修の実施</p>		※
2 研修・研究の推進	<p>(1) 高大接続改革における、大学入試共通テストや総合型選抜、学校推薦型選抜など新たな入学者選抜に適切に対応できるよう、情報収集や研修を進めます。</p> <p style="text-align: right;">※校内研修</p> <p>(2) ICT環境整備が進む中、「従来の授業と、ICT活用の授業をどのようにリンクさせれば効果的な学習に繋がるか」をテーマに研修会、情報交換を行い、研究を進めます。BYODが導入され、教員のICT活用技術を向上させる取り組みを進めます。</p> <p style="text-align: right;">※授業におけるICT利用状況</p>	(年度末および適宜記載)	◎

3 業務改善と 職員健康管理	<p>(1) 日常的に教職員の健康管理に努めるとともにワークライフバランスの改善に向け行動します。</p> <p>※職員アンケート「健康面で不安を感じたことがない」55%以上</p> <p>① 休暇取得日数実績の向上に努めます。 ※休暇取得11日以上の職員85%以上</p> <p>② 毎月、定時退校日を定め全教員が定時退校に努めます。 ※定時退校率85%以上</p> <p>③ 全クラブにおいて、授業日以外の部活動休養日を週1日 設け、休養に努めます。 ※実施率93%以上</p> <p>④ 会議時間が60分以内となるように努めます。 ※主要会議の85%以上</p> <p>(2) 総勤務時間の縮減に向け継続して取り組みます。</p> <p>① 職場全体での時間外勤務平均時間数の削減に努めます。 ※前年比で－1時間</p> <p>② 当月時間外労働が45時間、年間時間外労働が360時間 を超える職員の皆無に努めます。</p>	(年度末および適宜記載)	※
4 情報提供	<p>(1) 本校教育活動を生徒、保護者、地域社会へ効果的な情報 発信に努めます。 ※報道提供1回以上</p> <p>① 保護者、PTA役員等に学校行事への参観や参加を適切 に呼びかけます。</p> <p>② ホームページや安心安全メールを活用し学校の情報を積 極的に発信します。</p> <p>(2) 50周年記念事業に向け同窓会とも連携します。 ※同窓会との情報共有状況</p>		※
改善課題			
(年度末に記載)			

5 学校関係者評価

明らかに なった 改善課題と次へ の取組方向	(年度末に記載)
---------------------------------	----------

6 次年度に向けた改善策

教育活動につ いての改善策	(年度末に記載)
学校運営につ いての改善策	(年度末に記載)